

目次

1. センター国語の解法視点（古文・漢文編）	2
（1）解法視点その1	2
（2）解法視点その2	3
（3）解法視点その3	3
（4）解法視点その4	3
（5）解法視点その5	4
（6）解法視点その6	4
（7）解法視点その7	5
（8）解法視点その8	5
（9）解法視点その9	5
2. 高得点（170点以上）をとるための練習方法	7
3. センター国語解き方の戦略（古文・漢文編）	8
（1）センター古文の解き方	8
（2）センター漢文の解き方（その1）	10
センター漢文の解き方（その2）	14
センター漢文の解き方（その3）	14
4. 実戦演習（古文・漢文編）	16
（1）古文（2003年本試験）その①	16
（2）古文（2003年本試験）その②	18
（3）古文（2003年本試験）その③	21
（4）古文（2004年本試験）その①	26
（5）古文（2004年本試験）その③	33
（6）古文（2004年本試験）その③	35
（7）古文（2004年本試験）その④	38
（8）古文（2008年本試験）その①	42
（9）古文（2008年本試験）その②	44
（10）古文（2013年本試験）	47
（11）古文（2014年本試験）	52

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

（12）漢文（熟語対策）	56
--------------------	----

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

1. センター国語の解法視点（古文・漢文編）

（1）解法視点その1

センター国語は、受験生の力ではまともに組めば組むほど正確さを追求すればするほど時間が足りなくなります。

そこで、本文全体を読みすぎずに、かつ、部分的に丁寧に捉える姿勢が必要となります。

評論、小説では、本文を全て読む必要など全くありません。

古文は、最初の前振り説明と設問とを組み合わせ、読む方向性を定めつつ、読めることだけをつなぎ処理していきます。

漢文は、本文のまとめり、つまり、何が言いたいのか？を捉えるために2～3度、本文をまとめて読む必要があります。

つまり

現代文…時間をかけずに処理

古典…何度か読める体制を作りつつ処理

という姿勢が必要となります。

予備校などの指導では

漢文(10分～15分)

↓

古文(15分～20分)

↓

現代文(残り時間すべて)

という形で言われていますが…

昨年（2014年）みたいなセット内容だと

普通の受験生の普通の方針(解き方)だと確実に崩壊してしまいます…

今年もそうなるかもしれません。

現代文(2つで20分～30分)

←ここがカギを握っています

古漢(残り時間すべて)

と、いくほうが高得点につながるでしょう。

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

（２）解法視点その２

古文の選択肢は、**主語**に注目して分類しておくとおもしろい。

主語違いにより２～３択に絞り込まれたら、もう一度、選択肢の違いに着目して本文をチェックし直すとエラーを発見しやすくなります。

漢文では、話の概要を掴んで**全体の視点**からその部分を見るようにすると、その部分の全体に対する働きが分かり選択肢の絞り込みが早くなりますよ！

さらに、**国語全体として選択肢の最後部分に間違いを仕込む傾向がありますので、まずは、そこに着目することも速く解く上で大切な視点となりますね！**

１点に絞り込んで選択肢を見るくせをつけて下さい！

それだけで、格段に正答率が上がります！

国語で間違えるのは、最後にカンを使うからです。

最後まで正確な対応チェックを心がけてください。

（３）解法視点その３

現代文(古文漢文)では、**指示語の指す内容**を解答に反映させたものを選んでください。

下線部内の指示語

下線部を含む１文内の指示語

下線部の直前文、直後文の指示語

以上３点は必ずチェックすること！！

指す内容は、99%直前にあります！

無理に部分的に特定しなくても、そのあたりの内容を含んだものを解答としてチェックしておけばよいです。

指示語は、文脈論理を司る大切な論理記号！

と考えて大切にしてください。

（４）解法視点その４

古文、漢文、小説において、**セリフ内の指示語は前のセリフ内容を指す**ということを意識して解答に反映させてください。

ついでに言うと、セリフは最後が大事！

そこが読めたら会話内容の柱はとらえられます！

ということは、ややこしい古文のセリフなんかは、最後のところを押さえておけば内容のつながりは見えやすくなるってわけです！

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

ちなみに、セリフ内容が？の古文では、セリフの外にすぐに目をやり話の流れを掴むことに集中してください！

それでも設問には答えられます！

（５）解法視点その５

対人ベクトルは、とても大切な視点です。

Aさん→Bさん

Aさん←Bさん

Aさん⇔Bさん

Aさん→周りの人

Aさん←周りの人

Aさんのみ

特に小説や古文で、チェックしておく視点です。

もちろん、設問に関係するところで捉えるだけでいいですからね！！

例えばリードで

「陰鬱な気分閉された」という内容があったら、自分のみのベクトルなので他人は関係ありません。

その観点で選択肢を見るとひとつしか答えはありません！

小説では、くどいほど、この視点をセンターは選択肢で、ウソを含め再現しています。

このあたりを見ている人は少ないのでぜひ確認してみてください！！

（６）解法視点その６

古文は単純！

だから、前書きの枠から内容は外れません。

→スタンスが一貫しています。

2人の登場人物がいても、メインの人物サイド(男)で話は進みます。

→主語のメインは男

女子はたまに登場なんです

恋愛も

男→女

のベクトルを大切にしましょう。

(肉食男子と受身女子ですね)

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

あらかじめ

話の外枠を捉えるのに役立つ設問は

①本文を通しての心情の流れをつかませる問題

→最初の部分の選択肢の違いをおさえて、本文で確認すると、たいてい、すぐに答えがわかります。

→ここの正解が分かれば、あらすじはすぐに分かりますね！

②間違っただけはどれ？

→選択肢の4本は正しいので、内容理解に利用します。

センター国語ってかなりヒントを与えていますよ！

あらかじめつかんでおくと、読むのも楽になりますね！！

（7）解法視点その7

(注)をよく見ておけ！！

と言われていると思いますが、それをどう捉えていますか??

意味ありげな無駄な修飾がついた(注)にこそ解答に使う

ととらえておいてください！

簡単な日本語情報なのに…

分かるからこそ舐めてしまい、大切なことを見逃していますよ！！

センター国語は、ヒントを隠すのがうまいのです！！

意識して捉えていないと、本当に大切な情報を落としてしまうので

(注)は「ゆっくり」「ていねいに」読んでください！

（8）解法視点その8

古文や漢文は知識などほとんど必要のない

小学生～中学生の現代文

って感じですので、慣れてしまえば、ゆっくり時間さえかければ点数化させやすいです。

（9）解法視点その9

古文は、前書きと一部の設問を利用して、第1パラグラフの人物のやり取りをある程度押さえましょう！

その際

S(誰が)

O(誰に)

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

V(どうした)

だけを捉えて外枠を掴むことが大切です。

ここが掴めたら、第2パラグラフ以降は設問を解ける程度に読み流して(時には飛ばして)もらってかまいません！

大切なのは、大きな外枠をつかんで設問に対処していこうとする姿勢です！

問1の傍線部解釈問題だけは

単なる**前後関係(前後つながり)**

で解いてしまうものなので、外枠そのものは、それほど関係はありません。

(もちろん外枠をつかんでおくことは無駄にはなりません)

設問と選択肢をよくよく見てみると細かい違いではなく、大きな違いを尋ねているだけにすぎないので、細かく慎重に本文を読み進めていくと、長文の長さで面倒さで殺られてしまいますからね！！

SVOの関係

は、とても大切です。

読みにくい箇所など、スルーしていき、外枠を捉える(パラグラフのまとまりを捉える)ことに集中してください。

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

2. 高得点（170点以上）をとるための練習方法

古文…大雑把に文法のことを気にしすぎず流れを捉えていき、たとえ語句系の問題であれ前後からの挟み撃ちで解いていき、かつ、選択肢を読解前に分類しながら相違点を本文で確認する。

漢文…速く正確に処理できるように過去問は3回くりかえす。

つまらない知識で解くような問題など皆無に近いので、暗記などに走らないようにする。本文を読み込んではいけません。

大体は眺める程度でとどめて(ほとんどは読まなくてよい)、焦点をきちんと設問に合わせて絞り込むことが大切です！！

予備校などで教わっているようなやり方は理想論すぎます。

結局自分の練習で短時間に客観的に選択肢が選べる材料を見つけ、確認する作業を常にしていかないと自分で出来るようにはなりません。

過去問以外は不要ですので、センターをしっかりと見つめて下さい。

130～150 くらいの点数は、惰性で勉強してきた人がまあまあ良い形になって表れた点数です。

下手すると、このあたりの点数の人は100点前後に終わることも覚悟しておいてください。

解きまくって確認する作業を自分でしない限り高得点になることはありませんので要注意です！

模試の点数は全くアテにならないので、そんなものにしがみついていて油断していたら、センター国語に圧殺されますので、これまた気をつけて下さい。

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

3. センター国語解き方の戦略（古文・漢文編）

（1）センター古文の解き方

本文を読む前に、内容一致問題の選択肢で大まかな内容の方向性と中心人物関係を拾い出しておいてから、前書き、注、と読んでもう少し全体の枠を固めておいて、それから読解スタートです。

ひとつのパラグラフを読む前に、そのパラグラフに仕込まれている設問の方向性を確認して読むべき情報を絞ってしまうことが大切です。

そして、読解を頭からしていくのですが、

「誰が誰にどうした？」

ということだけひとまず追いかけて外枠を捉えてください。

1つの段落で1場面、1つのまとまり、なので細かいことを気にし過ぎないようにまとまりでとらえること（センターはまとまり具合を常に聞いている）

読めるところ（基礎単語＋今の日本語の知識）をしっかりとつなぐこと！

少々わからないことがあっても、先に進んで、前との関連性をつかむように！

前書きで中心を探り

第一パラグラフは

人物のやり取り様子を観察しつつ「想像せずに確実に読めるところを」つないでいく
もちろん主語って大切だから常に意識は払います。

主語を常にチェックしていき、矛盾のないように⇒ココが古文のポイントです

主語の人の立場、気持ちには、一貫性があるので、読み進むにしたがって、ある方向に流れていっているのに気がつくはずです。

敬語は偉い人の動作につくだけです。

尊敬語⇒主語エライ

謙譲語⇒相手エライ

会話の中の丁寧語⇒相手への丁寧さ⇒相手が誰か分かれば用無し

会話以外の丁寧語⇒読者対象の丁寧さ⇒無視すべし

どれが尊敬でどれが謙譲か分からないと敬意の対象を聞くことにより、文脈把握ができていくか

つまり、その動作をしている人は誰？（尊敬語）

その動作をされている人は誰？（謙譲語）

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

ということを試す、簡単な問題で失点することになり痛いので、尊敬、謙譲の区別がつくようにしておきましょう。

読みにくい、読めない箇所はあまり気にせずとまりとしてとらえたらいいですよ。

細かい解釈などは、問われていることを改めて答える時に行うべきです。

怖いのは、細かいことに気をつけすぎて全体のペースをスローになってしまうことと、迷路に迷い込んで話を作ってしまうことにあります。

かぎ括弧内の会話も、外枠をおさえるつもりなら、かぎ括弧内の最後のところとかぎ括弧の外の言葉で足ります。

ややこしいことにヘタにクビを突っ込まないようにうまく回避して流れを見失わないようにしましょう！！

かぎ括弧が出てきたら、一旦、かぎ括弧の外を見て展開や流れを押さえて、必要に応じてセリフや思いのかぎ括弧の中身をとらえてみることは癖づけてくださいね！

あくまで、選択肢を客観的に切れるポイントを探しながら時には選択肢で違いを把握しながら本文で必要な箇所を見極め選択肢を判断していくようになります。

趣味で読んでいるのではなく、点数を確実に取るために正確な判断をしたい

という意識でとらえなくてははいけません。

読めたか読めないかではなく、きちんと時間内に客観的に正確に自信を持って正解を選べたのか？

ということにこだわらないと、選べたようでザルになったり、読めなくなって戦意喪失
→ヤマ勘使用

となったりして…

最悪を招くことになります…

いつも選択肢を切る選ぶために、最小限の正確な判断をする、という意識を読と解で発揮してくださいね！

基本的な 150 個くらいの単語の方向性と、終助詞や副助詞、願望系と完了系と過去の特
殊な助動詞さえ覚えておけば満点が狙えますので(らりるれ系の識別もおさえておくと
文法問題で役に立ちます)

細かい知識など後回しにして、問 1 なども基本的な知識で簡単に選択肢を絞っておいて
前後関係で無理のないもの(内容の中心が反映されているもの)を選ぶようにしてください。

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

余計な修飾語句が混ざっているものは不正解ですので、このあたりも過去問でチェックしてください！

150 くらいの古文単語をだいたいの意味(イメージ)を覚え、
打ち消し(否定)表現を仕入れ

な～そ→禁止

え～打ち消し→～できない

つべし、ぬべし→きっと～だろう

や、か→反語かな？って疑う

ことが分かれば

どんどん練習してみるべきです。

細かい文法を気にしていたら大きな点数を落とすことになりますよ！

そんなのチカラがまあまあついてから気にしていくということで構いませんので！！

前後関係を変にねじ曲げることなく素直に接続させていって、設問にアプローチしていくのは国語全般にとっても大切な考え方となります。

読み過ぎて自爆しないように気をつけてくださいね！！

和歌の解釈は難しいので、極力やらないようにして周りの情報で選択肢を攻めていくことを頑張ってください！

和歌そのものが読めなくて解けない、という問題は皆無です！！

内容一致の問題は、中心内容の反映を探すこと！

細かい違いを検討しすぎてドツボにはまらないように！！

古文は、大きな流れと傍線部付近のやり取りで得点出来ます。

（２）センター漢文の解き方（その１）

漢文の句法は

「使役、抑揚、反語、再読」

をマスターしておいて、すぐに読解練習をしてください。

漢文の漢字は「感じ」ですので、おおよその意味を捉えておけばかまいません。

フリガナ、送り仮名に注意して、フリガナが意味する一般的な意味で捉えておけばよいです。

読む順序を捉えるのが遅い人は、何度か素早く順番を捉える練習をして慣れておいてください！

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

ここがトロいと

内容が頭に入りにくいのです！

最初から読み進めながら

「誰がどうした？」

を意識してつないでください。

その時に

「何を言おうとしているのだろう？」

という中心をおさえる気持ちで読まないで、何が言いたいのか分かりにくくなりますので、意識してください！

設問の解答を急ぐより、パラグラフ全体枠を捉えることを急いで改めてまとめて設問を捉えていったほうが、迷わなくて済むとは思いますが。

漢文は、主題をつかまそうとする設問が多いので、中心がズレなければ芋づるで解答が出来たりします。

部分的なところだけでは細かいことを気にしすぎてくだらないヒッカケに捕まりますので外枠をしっかりとっておさえてからまとめて解くようにしてください。

書き下し問題は、書き下しを読んで訳して本文の前後とのつながりに無理のないものを選ぶようにすると間違えないようになります。

漢文法の知識で攻めすぎないようにするといいと思いますし、漢文法そのものを覚える必要もないと思います。

漢字の問題は当たり外れがありますので、仲間はずれを選ぶことを中心としてあまりこだわりすぎないようにしてください！！

漢詩の最低限の知識(偶数句末での押韻)は抑えておくとお題されたらサービス問題として安心感があります。

人としての教訓話が大半を占めますので、過去問でどういう人物像が理想なのか？をおさえておくといいです。

人に対する仁愛の徳と賢さが何より大切なのが古代中国ですので、そういう姿勢を過去問で確認しておいてください。

→内容の予測につながりますので！

漢字を素直に読んで、少し何を言っているのか意識してつないで中心をとらえる！！

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

漢文で高得点を捉えることは、そんなに難しくないので読解練習を過去問でこなして
しっかり満点を狙ってください！！

具体的には、

本文が一貫した内容なのこれも段落ごとにまとまりでとらえることです。

たいていの場合、

エピソード⇒本題

のパターンなので

2段落目の「最初」と「最後」に言いたいことが集中しやすくなります。

「使役、抑揚、反語、再読」

この4つの句法は、本文中でのポイントになるから、線を引かれていても、線を引かれ
なくても解答の根拠になるところです。ココだけは、しっかり訳して、選択肢を吟味
しましょう。

（漢文の選択肢はかなり甘いので、本文を分かるところで素直に直訳していけば間違い
の選択肢にはすぐに気がつくようになります）

白文の読み方を聞いている設問では…

- ①句法チェック（特に使役の使い方がウマイ）
- ②書き下しをすべてとりあえず訳して、本文とのつながりをチェック
- ③反語の漢字がないのに、んや、と読んでいるのはアウト
- ④使役の漢字がないのに、しむ系で読んでいるのはアウト
- ⑤選択肢を横に比べて、グループ化しておくトラク
- ⑥注にヒントを入れていることがよくある
- ⑦一応書き下しの日本語は古文チックな現代語なので、この部分の日本語を最後に読む
べき？

とかを考えてみると、案外突破口があります。

選択肢を横に比べることは、センター国語解答の基本なので、くれぐれも、その1本だ
けの選択肢を何度も読むようなマネはしないこと！！

選択肢の違いに注目！！

そして、困ったときは、

本文に帰って、観察、観察！！

センター漢文を演習するときの注意点…

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

- ① 語注にヒントあり⇒解答へのヒント、答えがある
- ② 分かる漢字は感じでとらえて、そのままとらえる（自分で脚色しない）
- ③ 知らない難しい漢字はフリ仮名に読解のヒントあり
- ④ 本文には簡単な論理構造があるので、段落ごとにとらえる
エピソード+本題のパターンで1つの考えを言っている
- ⑤ 書き下し文が用意されている設問は、その通り訳してみると解答できる
- ⑥ 長い下線部の読みを答える問題では、
使役の漢字がないのに「しむ」と読んでいるのは間違い
反語の漢字がないのに「んや」と読んでいるのは間違い
対句（同じようなフレーズ）がナイか確認してみる（読むリズムが同じになる）
本文に同じ漢字がないか調べる（同じ漢字は同じ読み）
- ⑦ 同じ漢字の使い方を選ぶ問題は、仲間はずれを探してみる
- ⑧ 最後の内容説明問題の選択肢をざっと読んでおくと、本文の内容の方向性が見える
- ⑨ 主語を考えて、読む&解く
- ⑩ 分かりにくいことにこだわらず、段落単位で考えること

漢文に関しては、河合の黒い過去問レビューがおすすめです（解説がきちんとしている）
苦手な人は、書き下し文、全訳を横におきながら、「カンニング作戦」で、ゆっくり読みながら、問題のねらい、パターンをさぐろう！

古いセンターの本試の問題が、最初は易しくて分かりやすいから、そこから順に最新年度へと進めていくといいでしょう。

20回分こなせば、かなり得点源になります。

句法や必出漢字は、あとで、「漢文一問一答完全版」あたりで軽く補充しておきましょう。

過去問やっている間に、たいていのものは解説されていますので、覚えてしまいます。

毛嫌いをなくせば、とても簡単ということに気がつきます。

慣れてきたら、スピードアップで処理する練習をしてください。

制限時間は最大15分です！

追試は、かなり慣れてきてから解いてください（かなり変則的な問題が入っている）

模試の漢文は、かなり微妙な問題が多いですので、センターに慣れたらそれで十分です。

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

（３）センター漢文の解き方（その２）

漢文は、最後の設問やそれぞれの設問の中で文脈を捉えるヒントを **あらかじめ** 手に入れてから読み進めるようにしてください！

これは、古文以上に重要な作業です。

なぜかと言うと、漢文は、「論旨が一貫している」または「言いたいことが一つ」という内容となっているため

～な方向性の本文

ということを捉えておくことで

内容がまとまりやすくなったり、全体に対する部分の意味が分かりやすくなったりするからです。

（４）センター漢文の解き方（その３）

食わず嫌いで得点が取れてない漢文に対して、暗記を主体とした勉強をオススメはしません。

→センターは読む&解く経験を増やせば点数は高得点で安定していきます

→暗記してないから得点が取れないのではなく、**内容を掴んでないから得点できないのです！！**

①まずは句法として

抑揚、反語、使役、再読文字

を暗記する(それ以外はほとんど不要！！)

→ここらがセンターのポイント、内容把握の中心点となります

②センター過去問を、内容をつかもう、中心点は何なのか？をつかもうと意識して、読み進めていく

→漢字は感じで、つかんでいく

→フリガナ、送り仮名でたいていの意味は類推できる！！

③何が言いたいのか？をつかんで設問への解答を芋づる的に行っていく！！

→部分的に設問を捉えるのではなく全体の中の一部として捉えるのがコツ

→対句(同じリズムのフレーズ)の利用

前後関係の利用も忘れないように！！

④解答をチェックし、全訳で内容を掴み直しもう一度、自分で内容を追いなおす

→ここは面倒だけど、必ずやってあくまで、自分で内容を掴む意識を高める

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

⑤一日 10 題×3 日間は一気にやってみて 30 題をこなしてみる

→一気に大量にやると頭が漢文脳になりやすくなり、パターンも分かってきて、主題をつかみやすくなります

→瑣末的なことを気にしすぎなくもなります

このくらいで、センター漢文とは何か？

が、つかめると思います。

足りないと思われる知識はあとで補充すればいいですね。

→漢字の読み以外、詰め込むべき知識はないとは思いますが、

内容をつかもうとして読まないと読めないのが漢文です！！

決して受動的に読まないようにしてくださいね！

得点の上下を気にするより、経験値を高める気持ちで取り組んでいきましょう！！

設問自体や(注)がヒントになっていることも忘れずに！！

書き下しの問題では、先ほどの句法的におかしいのを外して、あとは、訳をしてみて意味が通り、かつ、前後とバランスがいいものを選ぶようにすれば、たいてい大丈夫です

4. 実戦演習（古文・漢文編）

（1）古文（2003年本試験）その①

センター古文を最速にさばくいくつかの視点を2003年の「五葉」で解説します。20分で満点取ればいいわけなので、時間とのバランスを考えたらこういう読み方に多かれ少なかれなると思います。

それではスタートしてみます！

「妻に先立たれた式部卿の宮（親王）が、
後の宮に預けた子どもたちのもとを訪れた場面である」
という前書きが書いてあるので頭にしっかり入れてください！
ここで流れを組み立てていくのです。

嫁が死んで、悲しい気持ちをもって、預けた子どもの顔を見に来た場面ですね。

「やうやうほど近うなり給(たま)ひては、さすがに君たちの恋しさもひとかたならずおぼえ給ひ、」

何か近づいてきて、子どもたちが恋しくなって

「後の宮まだ里におはしませば、参り給へり。」

来ました。(父が←最初のところの説明で分かりますね)

「若君はそそき歩(あり)き給へるが、はやう見つけ給ひ、上に申さんとて走りおはして、」

若君が父を見つけて

「式部卿の宮、参りたり」と聞こえ給へるを、

「父が来たよ」って言っているのを

聞こえ…謙譲語…**相手を高める**…後の宮を高めている

給へ…尊敬語…**主語を高める**…若宮を高めている

このセリフを言っているのは若君、言われている相手は「後の宮」

という場面をおさえておかないと、敬語が誰を高めているのかわかりませんね。

敬語が難しいのではなく、場面をおさえていない流れが敬語問題を難しくしている部分があるのです。

もちろん、これは謙譲語、これは尊敬語という識別はできるようにしておいてくださいね！

「宮うちほほゑみて見たてまつり給ひ、「こなたに」とのたまはす。」

後の宮、笑って見て、「こちらへ」って言っている。

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

「親王、御前に参り給ひ、御物語こまやかに聞こえさせ給ふ。」

父がお話をしている。

「姫君は、宮、御ふところはなたで抱きいつくしみ給へるを、父親王はいとかたじけなく見たてまつり給ふ。」

姫、抱っこされている。

（父は）申し訳ないと思つて見る。

「このごろにいみじうおよすげて笑みがちにうつくしう見え給ひ、」

笑う、美しい（←姫君ですよ）

「親王のさし寄せ給へば、たかやかに物語し給へる御顔の匂(には)ひなどは、」

顔の様子は

「ただ母君のそのままにうつしとり給へるを見給ふには、」

母そっくりなのを見て

「えたへ給はず、」

堪えれんわ…（妻を思い出したんやね）

え+打消=～できない ←トーンが強いので気持ちに盛り上がりがある！

かきくらし給ふ。

〇〇な気持ち ←気持ちが盛り上がって

（問1）下線部の解釈はどれ？

（ア）かきくらし給ふ

①むなしく時を過ごしていらっしゃる ←気持ちがゆるいですね。惜しいけど×

②悲しみにくれていらっしゃる ←気持ちが盛り上がっていますので、○

③感涙にむせんでいらっしゃる（感動しています…×）

④部屋にこもりっきりでいらっしゃる（外にでていますが？×）

⑤心に描き続けていらっしゃる（何を心に描いているのかな？…×）

「宮も『見るに心は』とつゆけうのみおぼえ侍(は)べる」とておしのごはせ給ふ。」

後の宮も悲しい

（問3）下線部はある和歌を踏まえた表現です。その和歌はどれ？

①女郎花見るに心は慰までいとどむかしの秋ぞ恋しき（秋？…×）

②女郎花見るに心は慰まで都のつまをなほしのぶかな（妻は生きている…×）

③よそにても見るに心は慰まで立ちこそまされ賀茂の川波（賀茂川？…×）

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

④ **しのぶ**草見るに心は慰まで**忘れがたみに煽る涙**かな（**忘れ形見＝姫** ○）

⑤ **かたみ**ぞと見るに心は慰まで乱れぞまさる**妹が黒髪**（髪の毛?…×）

和歌はそれまでの内容の凝縮

そして、**比喩が多いので、もとは何を例えているのかはわからない**

→そのまま解釈しましょう！！

ここまでは

姫が亡き妻にそっくりで悲しい

という場面でした。

ということで、和歌の違いに注目してくらべてみて

④が正解です！

助動詞、単語、というものに走りがちですが、古文とはいってもセンターの場合、かなりの現代語の要素が含まれています。

そして、**ネチネチ全訳をほどこしていったら（←分からない部分も多いですよ）**

時間内に、問題を解き終えて、完答することが難しくなってきます。

訳せない箇所がでてきたら、

「内容展開をおさえる」

という視点を忘れ、右往左往してしまうからです。

センターは、内容をざっくりとらえる力をかなり聞いています。

大きな流れをとらえつつ読み進めるようにしないと、かなりのダメージになることをしっかり意識してください！

（2）古文（2003年本試験）その②

（1）やうやうほど近うなり給（たま）ひては、さすがに君たちの恋しさもひとかたならずおぼえ給ひ、後の宮まだ里におはしませば、参り給へり。若君はそそき歩（あり）き給へるが、はやう見つけ給ひ、上に申さんとて走りおはして、「式部卿の宮、参りたり」と聞こえ給へるを、宮うちほほゑみて見たてまつり給ひ、「こなたに」とのたまはす。親王、御前に参り給ひ、御物語こまやかに聞こえさせ給ふ。姫君は、宮、御ふところはなたで抱きいつくしみ給へるを、父親王はいとかたじけなく見たてまつり給ふ。このごろにいみじうおよすげて笑みがちにうつくしう見え給ひ、親王のさし寄せ給へば、たかやかに物語し給へる御顔の匂（にほ）ひなどは、ただ母君のそのままにうつしとり給へ

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

るを見給ふには、えたへ給はず、かきくられ給ふ。宮も「『見るに心は』とつゆけうのみおぼえ侍(はべ)る」とておしのごはせ給ふ。

(2) 若君、「宮のちご見ん」とて寄りおはしたるに、親王、「これをばらうたくおぼすや」とのたまへば、かしらふりて、「いな。このちご得給ひてのちは、宮の常に抱き持ち給ひ、まろをばありしやうに抱き給はず」とものしげにのたまへば、親王もうち笑ひ給ひ、「いつまで抱かれ給はんとおぼす。このかみにおはすれば、今からおとなびてこそもてない給はめ。なむつかりそ」と聞こえ給へば、「あらず。まろは宮の子、ちごはこのごろ養はせ給へるなり。まろが抱かんとすれば、『うち落としつ』とてゆるし給はず。いと見苦しきを、率(ゐ)ておはしね。まろあれば、ここにはやくなし」とのたまふを、後の宮、いとうつくしう見たてまつらせ給ひ、うち笑ませ給ひて、「常にもかやうに心せばくのみ聞こえ給ひて」とのたまはす。

第1パラグラフは、妻に先立たれ、預けていた子どもに会いにきたら、娘の様子が妻にそっくりになってきて、妻のことを思い出し父が悲しい気持ちになった場面でしたね。

若君、「宮のちご見ん」とて寄りおはしたるに、

若宮、「ちご見る～」と寄ってくる、

親王、「これをばらうたくおぼすや」とのたまへば、

父、「これを可愛いと思うのか？」

らうたし=かわいい

や、か=疑問、反語←強いトーンだから読み飛ばすな！

かしらふりて、「いな。このちご得給ひてのちは、宮の常に抱き持ち給ひ、まろをばありしやうに抱き給はず」とものしげにのたまへば、

若君、あたまをふって、「可愛くない。……ぼくを抱いてくれない」

後の宮が姫君を抱っこしている場面なので、子どもながらに、すねていることが分かる！

親王もうち笑ひ給ひ、「いつまで抱かれ給はんとおぼす。このかみにおはすれば、今からおとなびてこそもてない給はめ。なむつかりそ」と**聞こえ給へば**、

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

父は笑いながら、「いつまで抱かれようと思っているのか？……。～するな」

な～そ = 禁止

～するな は 「スネルな」 くらいの流れになりそう

聞こえ…謙譲語…相手を高める…相手は子どもの若宮

給へ…尊敬語…主語を高める…このセリフはパパである親王

「あらず。まろは宮の子、ちごはこのごろ養はせ給へるなり。まろが抱かんとすれば、『うち落とす』とてゆるし給はず。いと見苦しきを、率(ゐ)ておはしね。まろあれば、ここにはやくなし」とのたまふを、

若君、「僕は宮の子、……。僕が抱こうとすると『落とす』と言って許してくれない。……。僕がいるので、……」

若君なりの主張（オレ様的な流れ）

後の宮、いとうつくしう見たてまつらせ給ひ、うち笑ませ給ひて、「常にもかやうに心せばくのみ聞こえ給ひて」とのたまはす。

後の宮、笑って、「いつも、このように心せまいことばかり言っているのですよ」

子どもの戯言を伝えて場をまとめている

（問４）

傍線部以下に続く、「若宮」の「宮のちご」に対する言動の説明として最も適当なものをえらべ。

①式部卿の宮の跡継ぎである自分の立場がゆらぐのを恐れ、妹はいなくてもかまわないと言っている。

かなり策士的ですね（宮はスネてる子どもですよ）…×

②妹のことがかわいくてたまらないが、自分は別格であるという自覚から、本心とは逆の態度をとっている。

妹のことは、アタマをふって「可愛くない…」と言っているので×

（じつは可愛く思っている

なんてとったらダメですよ。書いてあるとおりにとらえてくださいね)

③妹をうまく抱けなくてけがをさせそうになったことがあるのに、反省する態度を表せないでいる。

助動詞「つ」の知識を聞いていそうですが、（いちおう強意です）→けがをさせそうになったことはない！

こんな知識よりもっと考えて欲しいのは

第2パラグラフの流れを聞いているのに、こんな部分的な内容の選択肢が正解になるはずもありません…×

④後の宮の愛情を独占できない不満から反発の言葉を口にするが、本当は妹に対して強い関心を抱いている。

問題なしの選択肢です…○

強い関心ですから、好き嫌いと言っているわけではありません。

妹のことをずっと口にしているわけですから、強い関心はあります（無視をしているわけではありませんからね）。

⑤後の宮に思う存分甘えられないことに不満を感じているが、兄としての立場をわきまえて我慢している。

後半が×

不満を口にしていますから、我慢なんてしていませんね。

敬語の説明を第1パラグラフ、第2パラグラフに入れてあった部分が、問2の設問になっていました。

設問は誰を高めているのか組み合わせを選べ、という問題でしたよ。

敬語問題は、誰と誰のやり取りかが分かれば、サービス問題です！

（3）古文（2003年本試験）その③

（1）やうやうほど近うなり給(たま)ひては、さすがに君たちの恋しさもひとかたならずおぼえ給ひ、後の宮まだ里におはしませば、参り給へり。若君はそそき歩(あり)き給へるが、はやう見つけ給ひ、上に申さんとて走りおはして、「式部卿の宮、参りたり」と聞こえ給へるを、宮うちほほゑみて見たてまつり給ひ、「こなたに」とのたまはす。親王、御前に参り給ひ、御物語こまやかに聞こえさせ給ふ。姫君は、宮、御ふところはなたで抱きいつくしみ給へるを、父親王はいとかたじけなく見たてまつり給ふ。このごろにいみじうおよすげて笑みがちにうつくしう見え給ひ、親王のさし寄せ給へば、た

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

かやかに物語し給へる御顔の匂(には)ひなどは、ただ母君のそのままにうつしとり給へるを見給ふには、えたへ給はず、かきくらされ給ふ。宮も「『見るに心は』とつゆけうのみおぼえ侍(はべ)る」とておしのごはせ給ふ。

(2) 若君、「宮のちご見ん」とて寄りおはしたるに、親王、「これをばらうたくおぼすや」とのたまへば、かしらふりて、「いな。このちご得給ひてのちは、宮の常に抱き持ち給ひ、まろをばありしやうに抱き給はず」とものしげにのたまへば、親王もうち笑ひ給ひ、「いつまで抱かれ給はんとおぼす。このかみにおはすれば、今からおとなびてこそもてない給はめ。なむつかりそ」と聞こえ給へば、「あらず。まろは宮の子、ちごはこのごろ養はせ給へるなり。まろが抱かんとすれば、『うち落としつ』とてゆるし給はず。いと見苦しきを、率(あ)ておはしね。まろあれば、ここにはやくなし」とのたまふを、後の宮、いとうつくしう見たてまつらせ給ひ、うち笑ませ給ひて、「常にもかやうに心せばくのみ聞こえ給ひて」とのたまはす。

(第1パラグラフ)

パパが妻に先立たれ、預けた子どもが恋しくなって会いに来たら、娘が妻に似てきた様子に、妻のことを思い出して悲しい気持ちになった

(第2パラグラフ)

息子は、妹が可愛がられているのをすねている様子…小さいんですからこんなことよくありますね。

第3パラグラフは読みにくい箇所がかなりあるような文体です。

こんなときには、どう読み進めていくべきなのでしょう？

こんなときこそ

①読めるところでトーンをつかもう（難しいことはトバセ！）

②会話のキャッチボールは答えから（会話を逆からたどりなおすのもアリ）

③「 」の外に注目（←ここをたどると流れが見えやすい）

という攻め方を考えていきましょう

必要なことは、

「設問を解くために必要最低限のことをつかむ」という意識です。

長くごちゃごちゃした展開の題材のわりには設問は意外と単純なんですよ！

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

アタマをパニックさせた人が負けです！

「アタマを整理するために読む量をわざと減らしていく」必要があるわけです。

だんだん慣れていきますので、不安がらずに一緒に読んでみましょう！

、（3）親王は引き寄せたてまつり給ひ、

父は何かを引き寄せる

「童(わらは)げてらうがはしくそそき給はで、おとなしうし給ひ、宮の御心安からんさまに見えたてまつり給へ」と聞こえ知らせたてまつり給へど、

（あ、子どもを引き寄せたんだ、童って書いてあるし）

息子に何かをつたえているんだな

「、おとなしうし給ひ、●●し給へ」

「おとなしくして、●●しなさい」

と息子を論している感じやな

「……」……ど、（……するが）

って書いてあるから

息子を論しているのにもかかわらず、息子は言うことを聞かない っていう流れでもくるのかな？

いとかひなげに何ともおぼしたらぬを、

なんとも思っていない（息子は）

心苦しう見たてまつり給ひ、

父はマイナスに見ている、

「おとなび給へらんほどをも、え見たてまつらぬなめり」とのたまひて、いみじううちしをれ給へるを、

「おとな……を、

私は見ることはできない…」と父は、うちしおれる

え…打消 = …できない（←トーンが強い！）

なんで父は、こんなことを言っているのかツッコミたいところですね

（妻が死んで悲しいのはわかるけど、何かあるのかなあ？）

宮、「などかくはおぼしつる」とゆゆしげにのたまへば、

後の宮が、「どうしてこのように思うの？」

と不吉そうに言う（気になるもんね）

ゆゆし＝不吉な

「あやしうもの思はしうのみ侍りて、世に久しからんものともおぼえ侍らで」とまぎら
はし給ふに、

「
」だと父はまぎらわせる（←話をそらした感じですね）

ここから後の宮の長いセリフです（適当に、はしよっていきますね）

「いと忌々（いみいみ）しう。さまでなおぼしそ。

不吉です

そう思うな

な…そ ＝ …するな（禁止）

世にたぐひなきことにしもあらず。

いみじう思ひて、同じ道にと契りつる人も、

????

（問1のイ）

- ①一緒に歩いていこうと誓い合った人
- ②ともに仏道修行をしようと約束した人
- ③旅に出る時は一緒にと約束した人
- ④ともに技芸を磨こうと誓い合った人
- ⑤死んでからも一緒だと誓い合った人

しばしこそあれ、ほど経（ふ）れば忘れ草生（お）ほすなん、

経つ（←時間？）と、忘れる

⑤以外は死んでいる妻のことを指していない！

従って、答えは⑤

世の常のことなる。

いつものことです

さりとして浅きにはあらず。

かへりてめやすきかたにこそはあらめ。

ひたぶるにおぼしむすぼほれて、

埋もれいたくものし給はん、

埋もれている

（問1のウ）

- ①ひどくふさぎこんでいらっしゃるのは
- ②苦痛を見せずに我慢していらっしゃるのは
- ③ひたすら人目をはばかっていらっしゃるのは
- ④内気すぎて人前に出られずにいらっしゃるのは
- ⑤才能を発揮できずに苦しんでいらっしゃるのは

いといふかひなくめめしうこそあれ。

めめしいですよ

人前に出てきているので、③、④は×

才能は関係ないので⑤も×

②…苦痛を見せる流れは今までかなりあったので×

態度に見せているわけだから、①が正解で○

上の『御世も末になりたり』とのたまはするを、

『さしつぎには』とおもむけさせ給ふに、

あいなう御心みだり給はんことは、

いとかたじけなきことにぞあめる。

（注）『住（すみ）吉（よし）の岸』をだに尋ね給へ。

忘れなさい

さらば、誰（た）がためにもめやすからん」と聞こえさせ給へば、

（注）和歌などでは忘れ草に結びつく土地とされる。

後の宮は「死んだ妻のことは忘れなさい」というトーンですね。

親王、

つみぬべき忘れ草さへうき身には人をしのぶの色に見えなんとたまふを、心苦しう見たてまつらせ給ひて、

宮、

尋ねてなどつまざらんなべて世のうきを忘るる草葉ばかりはとおぼしあつかひつるもいとかたじけなく、「心の中(うち)を見せたてまつりたらましかば、いかさまにかおぼしめすらん」とおぼゆるも、たへがたうおぼすを、つれなくしのびてまかで給へり。やがてその夜忍びて出(い)で給ふ。御供にも心安きかぎり二、三人ばかりにて三(み)井(ゐ)寺におはしまし、日ごろむつまじうおぼしめしつる阿闍梨(あざり)の坊にて、御髪(みぐし)下ろし給へり。

（４）古文（２００４年本試験）その①

最初の前書きは慎重に読んで以後の話まで少し考えておくことは必ずやってください！！

→ココはかなり重要です！

現代語情報は生かし切ることで！！

中島広足→姓名が今風→江戸の疑古文→読みやすい展開が分かり易いはず→落ち着け！！

播磨の国明石→京都に比べたらド田舎

浦→海辺→漁師？

男→田舎の青年

上京→船旅で、かな？

何故か貴族の屋敷に出入り？？

姫君に仕える女→都会のエエ女、のはず

恋仲→和歌のやり取りあり

男が落ち合う機会をうかがっていた

→男が love

→しかも会えてない

→女は嫌ってるとか不安とか？

→まあ身分差あるし、田舎者やしな、微妙にためらう気持ちも分かる
どうも

男 love

女ためらう

の図式ありそう

この男側からの恋は成就するの？

→古文の話の変化の無さからいくと

このまま微妙なままに終わりそうな…

男女の「主語」をチェックしながら

読むとしよう！！

前書きから

男主体の話ってことが分かるから

男サイドの内容に偏りそうかな…？

→前書きヒントをセンターは与えてるような気がする…

パラグラフは1つの場面だから

まとまり具合を意識して流れも意識しましょう！！

第一パラグラフは、関係を掴む上で少し慎重に読むんだったな

さあ、アタック！！

【第一パラグラフ】

男、その夜「も」空しい

→あ、今日も会えないんや…

→男、ツライなあ…

おぼつかなく思いわびて

→どうせ気持ちは沈んでいる

マイナスのまま

→スルー

今宵「も」

→また会えない

思いしをれたる

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

→男の気持ちはマイナスのまま

→変化なし

→スルー

傍線部 A

女が来た。

ここで問いの確認！！！！

女が来た「理由」を問うている

→すぐ近くに根拠あり

→とりあえず次を読むとしよう！

かぎ括弧の中はいきなり読まずに、外を見て、流れを押さえるんだった！

こっちからの手紙に

「」

と書いてあったので

驚いて出てきた

→かぎ括弧の中に答えある！！！！

と判断して、かぎ括弧の中身を読む

セリフや思いなどのかぎ括弧は日本語の特性上最後が強いに決まってる！！

また、手紙だから最初ダラダラ、最後に核心やな！

かぎ括弧内の最後に目を飛ばして

行きかかれて

→隠れる？

世をのがれる

→世の中をのがれる？

ぬべし

→めっちゃ強い表現

→きっと～する

150 個くらい覚えてると

特別に古文らしい単語もない

ことに気がつくので

意味的にはこれ以上深追いしないこと！

→変な想像が失敗をまねくぞ！

と言い聞かせながら選択肢チェック

手紙だけに着目して切るぞ！

1の選択肢

行ってしまいなさい？

→アウト！！

2の選択肢

引き返しました？

→アウト！！

3の選択肢

会いに行きませんか？

→男が消えると言ってただけやし

これは言い過ぎちゃう？

→疑ってかかりたい選択肢やわ！

他のパーツ見たら

夜道をこっそり…

→そんなんどーでもええやん（笑）

→こんな内容必要??

3はかなりアウト臭い

4の選択肢

→あなたの前から消えてしまいます

→これはエエやん！！

→限りなく正解っぽい

→今までのあらすじもてんこ盛り

→センターは正解の選択肢で、これまでの話を明確にさせる傾向があるからそれにもドンピシャやん！！

→たぶん正解やで！！！！

一応確認のため

5の選択肢

今夜も忙しいから会いに行けません

→来てるやん！！

って軽くツッコミ入れて

→アウトやな！

怪しそうな3と正解っぽい4を比べると3は狼狽って怪しいし

「こっそりと」ってめっちゃ邪魔な表現

「夜道」ってまあ、無駄表現

4は

断り続けてきたのは確認できる

動揺

→このくらいならええね

やって来ざるを得なかった

→会いたくないような気持ちもあったから、的を射てるなあ！！

絶対4だと決めて

マークシートに色塗りやな！

（19）古文（2004年本試験）その②

女が男らからの手紙に驚いて

出てきて

やがて

→そのまま

→引き続きの動作だから主語変わらないんだろくな

絶え入りてうつし心なし？

→よーわからん

もの思い騒ぎで

→誰の気持ちかなあ

→予想では男やろう…（確信なし）

かぎ括弧やから

最後を読んで…

かかるさまを

→このようなさまを

いかにせむ

→どうしよう？

たぶん女の身に何かあったのかな？

あくまでこの思いが男のものだと

仮定しての推測だけど…

とりあえず

矛盾が出てくるまでこれで捉えてみよう！

男が

かなしい

→悲しい？

神仏を念じつつ

→神に祈る??

→かなりヤバイ状態なの？

抱き持ちて

→力仕事なので男がやってる行為であるのは間違いなさそう

→女を抱き持って

湯などを飲ませる

→女の状況が推測できるかな…

→意識でも失っているの？

いき出て

→息が出てくる？

→たぶん女が気がついた…とか？

うれし

→男が嬉しいだろうな

問1のアで

女の様子を選んでもみると…

選択肢1

生気をなくしているのを

→血の気が引いている

→湯など飲ませないやろう…

→ダメっぽい

選択肢 2

記憶をなくしているのを

→湯などを飲ませないやろう…

→ダメっぽい

選択肢 3

気を失っているの。

→これはエエんとちゃうかな

→保留

選択肢 4

黙り込んでいるのを

→抱き持って湯などを飲ませたら怒られるで（笑）

→ダメやな

選択肢 5

気分が滅入っているのを

→抱き持って湯などを飲ませたら怒られるで（笑）

→ダメやな

ということで

正解は3やね！！

息出てくるとも整合するしね

あ、絶入る

→気絶！！！！かな

このあとは

語らふ

→おしゃべりしたみたいやな

あとは、場の雰囲気を書いて

和歌のみ

問われていないのでスルーしよ！

この女

そんなに安心して気絶するくらい心配症ならさっさと出てくれば良かったのに…

身分差とか世間体でも気にしすぎているのかな…無理矢理外に出された感があるから男は嬉しくても女は微妙なのかも。

第1パラグラフで人物関係、様子が確認できたから

第2パラグラフ以降は解くためにピンポイントを押さえながら読み取るようにすべきです。

場所的な空間には意識を払いつつ設問に合わせた読み方をしてサッサと攻略しましょう！

（5）古文（2004年本試験）その③

【第二パラグラフ】

設問で先に狙いを定めてスピーディーに解きましょう。

問4は

Bで女が泣き

Cで男が嬉しい

「理由」を問うている問題です。

理由は直前直後に書かれてるはず

だから

まずはそのあたりの検索チェックです。

男は嬉しくてアタリマエだから、女が泣いてる理由が気になるところです。

想定内のような気もするが…

Bの直前に

姫君のみ恋しくて、泣く

ってあるから

ここらを選択肢でサーチしてみて

足りなければまた読み足せばいいか！

選択肢1

都での日々も懐かしい

→ボケ気味→漠然としすぎや！

→姫君を恋しくやったしな

一応保留！

選択肢2

体調も不安？

→これはアウト！

選択肢3

家族の今後も心配

→誰の家族？

→この女の素性なんてどーでもよし

→アウト

選択肢4

主人の心労？

→主人って誰？

→アウト

選択肢5

姫君の屋敷での暮らし

→よさそうです。

選択肢1と選択肢5を

読み比べてみると違いが見えるので、その違いを確認して答えを確定しよう！

「男の、道中の危険をきにしつつ」

と

「男の、人目を気にしつつ」

が大きな違いです。

本文でそこをチェックしましょう。

「さらに知る人なし」

パラグラフの頭にも

「人や見つけむ」

とあるので、追っての心配のようです。

そういえば、危険って内容も具体性がなくボケ気味やな

こんなの正解になるわけがないから

ということで

選択肢5が正解です。

これを読んで

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

パラグラフ2のこのあたりの内容ダイジェストを確認しておく、駆け落ちですね。
男が地元のためらう女を連れて帰ろうとしている場面です。

（6）古文（2004年本試験）その③

駆け落ち場面に入ったこの後の展開を追うべきかどうかは、設問で問われているかどうかにかかっています…

問5を確認してみると

参考の歌を与えているから

これを訳せばよいようです。

種ある

岩にも松が生える

→とりあえずスルーします。

恋をし恋をすると

→恋をしまくる感じですね。

逢は

→会う

ざら

→打ち消しですね。

や

→疑問はおかしいから反語です。

→反語は打ち消しみたいなもの

二重否定で、めっちゃ強い！！

恋をしまくったら会えるって感じです。

選択肢でサーチしましょう。

選択肢1

初めは淡い恋心

→恋をしまくと違うな！

→アウト

選択肢2

ひたすら恋し続ければ

→正解候補

選択肢3

恋が芽生えたとしても

→アウト

選択肢4

辛抱強く待ち続ければ

→何を？

→アウト

選択肢5

どんなに恋慕っても

→アウト

選択肢2が正解！！

って分かったところで

内容ダイジェストを読んでおくでしょう

男の一方的な気持ちを

伝えていたんやな！！

もう一問解いておくか！

をかしげなるを

の意味を聞いてるね

→ええなあ

って意味やけど文脈いるやろ！

女が頭をもたげる

寝くたれ髪が乱れるのを

搔く

→ボリボリ搔いてるんかなあ？

恥ずかしげにまぎらわしたる

→あ、恥ずかしい

って流れをええなあって思うのは男やな

好きやから可愛くおもえるんやろーな

選択肢いくで！

選択肢 1

しとやか→髪を搔いてるからアカン！

選択肢 2

優しい→よ一分からんわ

→判別不能

→アウトやな

選択肢 3

こっけい

→をかし→おかしい→こっけい

無茶しすぎやん！

→アウトやろ！

選択肢 4

かわいい

→こういうの分かる気持ち

→ありえるから残す

選択肢 5

品のよい

→髪を搔いていましたけど？

→アウト！

ということで

正解は選択肢 4 やね！

男は

さいごまで追ってを心配している

みたいやな…

女は慣れない舟で

さすがにキツイんちゃうかな…

（7）古文（2004年本試験）その④

【第三パラグラフ】読解目標

場面をおさえつつ前後関係による下線部処理と
和歌への approach

→和歌を解釈する前に周りの状況確認をすること！

→和歌を解釈しなくても済むことが多いので！

なにがしの浦に寄った

→地元の明石ではなさそう…

→寄り道？

舟人のセリフは中心人物やないから

スルーして

展開を追うことにしよう

次の

かぎ括弧のセリフはおそらく男のセリフ

(当時の女は積極的に発言しないのが普通)

と予測して読んでみる

舟酔いは、浜辺を歩くと醒める

と言ってるので

→船酔いした人がいるみたい

→女が船酔いしかないやろ！

二人は舟を降りた

やうやう

→だんだん

→何かが変化した様子

→変化するのはこの場合酔った状態しかない！

心落ちいぬる

→やうやうから女の酔いに変化つまり醒めてきたことを表すのでは？

このあとは歌を詠む展開のみ

問1のウの選択肢を見てみよう！

選択肢1

気持ちが落ち着いてきた

→まあ、ええのかなあ

→悪くなさそうなので残す

選択肢 2

納得？

→何に？とツッコミ入れて

→アウト

選択肢 3

真意？

→何の真意？

→アウト

選択肢 4

決心？

→何の決心？

→これもアウト

選択肢 5

誠実さ？

→あ、男の、ね

→船酔い→だんだん→誠実さ？

→だんだんとつながらない

→アウト

酔いが醒めたことを表すのは

選択肢 1 しかないな！

「だんだん」

みたいな副詞を

逃してはいけないよな！

行動の変化＋連続性なんやから！

一応問 6 を捉えるために

歌を流し読みしてみてもつまめるところだけ訳してみよう

→言葉遊びなのでスルーするところばかりやとは思うけど…

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

E 男の歌

貝の様子を読んで

いもせ？そなふる

(恋人のことなんやけど分からんことにしとこー)

F 女の歌

分かるような分からないような…

空し→マイナス感情？

第三パラグラフで詠まれた歌

だから

この第三パラグラフの場面を中心としてトータルの心情をチェックしよう

(恋愛に関する古文なので、心情は、さほど変わらないはずだから)

とりあえず問6の選択肢へ！

読みが足りなければまた足せばええね

選択肢1

女と無事落ち合えた

→この場面で会ったのではない！！

→アウト臭い

身よりのない

→家族が死んだ??

→家族との繋がりはないやろ！

→アウト

選択肢2

理想の女性

→そんなの書いてなかった！

男と添い遂げられないのではないか

→一緒にいるし、意味不明

→アウト

選択肢3

女と一緒にいられる喜び

→場面にもOK

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

男との将来が不安

→そんな流れは最初からあったな

→一応正解候補！

選択肢4

女と再開

→この場面じゃない！

それに再開なん??

この土地で暮らしていく

→男の地元と違いますけど…

→アウト

選択肢5

会えない辛さを乗り越えた

→場面には合っていないんやけどなあ…

二度と会えないのではないか

→この心配をは意味不明！

→アウト

ということで

選択肢3が正解やな！！

ポイントを押さえつつ読む量を減らしていき、選択肢はポイントで切って内容把握に利用するという感じです。前書きもしっかり利用しましょう。

問2の文法は最後に解くべきです。

今回は

え音+ら、り、る、れ

→完了存続の助動詞

という簡単なポイントで

正解は2

でした！！

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

（8）古文（2008年本試験）その①

前書きに、一説とあるので説話(短編集)

「浅井了意」という名前から江戸あたりに書かれたものと推察しておく

→平安の文を真似た擬古文でなく分かり易い

恋愛などを絡めた人情物なのかなとも考えておく

問5あたりが内容一致問題なのでチラッと見ておくと

角左衛門→女へのラブ

女→死んでいる、幽霊??

藤内って??

くらいのことがザックリ掴める。

問6は文学史だけど少しヒントをいただくために解けるなら解いてみる。

説話なので③④が候補

④の東海道中膝栗毛は十辺舎一九なので間違い!

ということで正解は③

上田秋成の「雨月物語」は「幽霊ネタ」と知っているとなんかヒントなのかなあ
と思えるかも?

また

墓所とか妙に気になるフレーズが…

傍線部(ア)までは軽く流し読み程度で問題ない→部分勝負の問題

と考えてザックリとらえてみる。

角左衛門が旅していたら美しい女に出会い立ち寄って湯水をもらった場面が

第一パラグラフ

第二パラグラフ

女＝貧困→あはれに思えた

容貌が(ア)優にやさしき

選択肢

①上品で優美→美しい→OK

②他より際だって→余計なこと→ダメ

③ほっそり→現代感覚→ダメ

④凛として品位がある→美しいが書いてない→ダメ

⑤ 穏やか、慈愛→余計なこと→ダメ

よって、正解は①

次に、傍線部 A があるが傍線部 B までの流れを尋ねてるので回避して

傍線部(イ)けしからず振り放ちて

何を??

セリフの上を見ると

「手を取りて」

とあるので物理的な行動と考える

選択肢

① 放っておく→ダメ

② 誘いを拒絶→近いけど…

③ 手を払いのけて→OK→書いてあることから判断できる!

④ 迷いを断ち切って→ダメ

⑤ 怒りを露にして→ダメ

引っ掛けは②

あくまで場面は物理的なことなので

正解は③

問 3

A から B に至る角左衛門の心情の変化

→ダラダラ読むのが面倒くさい…

選択肢を眺めてみる→何かポイントないかなあ…

最後に注目すると、

B「悔いはじて」とあってこれと対応するものが並べられていることに気がつく。

選択肢

① 恐れ入って後悔→ダメ

② 反省し恥じ入った→まあまあ

③ 自省→1つだけ?→ダメ

④ 残念→1つだけ?→ダメ

⑤ 猛省→1つだけ?→ダメ

よって、正解は②

②を読んでから本文で確認してみる。

女は旦那の帰りを待っていることが書かれてて境遇や意思を知ったことも合致している

女に言い寄る→もちろんOK

②が正解の確信を得た！

問2の文法問題を一応やっつく

a

え音+らりるれ→完了存続

b

にや、のには断定

c

し+体言→連体形がし→過去

よって⑤が正解

（9）古文（2008年本試験）その②

第一パラグラフ

角左衛門が美しい女に会う

第二パラグラフ

女の美しさにひかれたが、女が夫の帰りを待っていることを知り自分を恥じた

ここからが残りの解説です

第三パラグラフ

道で葬式にあふ

藤内の葬式

角左衛門、驚く

墓所に行く

昨日の女のところだった

家はない

草がものさびしく風にそよいでいる

葬るところに

女房の(女)の棺ある

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

舅姑の二人の塚もある

→みんな死んでいた

十年死んでいた状況

→角左衛門感激！！

→女が家のことを世話しながら十年待っていたことが分かった

葬儀にお金を与え

儀式を助け

後の弔いのことまで

傍線部(ウ)

ねんごろにはからひて

女に感激しての行動であり、自分でも葬儀を助けてることから、このベクトルで見ると

④心を込めて処置して

が正解となる。

①計画を立てて

②命じて

③相談して

は方向性がおかしい

⑤仰々しく→大げさ→??こうする理由がよく分からない→まあダメな感じ

問4

死んでいるのに夫を待っていたりした幽霊の女の話だったので

死がテーマ

よって

(1)は④が正解

作者の感想と言っても流れは角左衛門の気持ちからの流れなので

感激モード

よって

(2)は②心から称賛が正解

夫と義父母にどこまでも尽くした女の誠実さに感銘を受けという記述で読み足りなかつ

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

たことを補っておく。

問 5

①読んでないところがあるので保留

②女の葬列→ダメ

③藤内の留守の間、女は忍耐強く藤内の帰りを待ちながら懸命に家を守っていた→OK
にもかかわらず

ついにこの世で共に暮らすことができなかった

→十年死んで待ってけど藤内が死んでしまったことから推察できる→OK

正解ですね

④角左衛門は生真面目とばかりは言えないものの→女に手を出そうとした→まあOK
情け深く→女に同情したながれあり→OK

旅の途中で出会った女に食べ物を施したり→2パラ最後に書いてある→OK

藤内の葬儀に際して援助を行ったりした→3パラにそのままあった→OK

正解ですね

⑤不粹にも→マイナス→ダメ

女に断られたとき、自分を恥じたくらいなので、女にマイナスはおかしい
→ダメ

⑥藤内を励まし??

→藤内の葬儀に出くわしたのでダメ

本文は必要に応じて構わないので

あらすじを大きくとらえるくらいに読みつまむ感じにしておくことが大切です。

あくまで、設問に合わせた読み取りをいつも意識することで無駄読みを防ぎ頭を使うことに時間が使えるわけです。

判断に困る選択肢も

→(ア)(ウ)がそうですね

余計なことはダメ

という判断が必要になりますので、こういうところは過去問をしっかりと確認しておきたいところです。

もちろん単語力があると判断はしやすくなりますが、あくまでいつも判断しやすくなるわけではありません。

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

都合よくその意味を覚えているとは限りませんし、最後には文脈が必要になることになりしますので単語力があれば少しマシになる程度だということなのです。

解く練習をしながら、どういうレベルの選択肢が正解となるのか？

ということも体感しておかないと結局ワナに引きずられてしまいますので、十分注意してください！

（10）古文（2013年本試験）

内容全体に関わる本文読解ヒント問題が見当たらないので、とりあえず前書き！！

「男が琴の音につられて娘のところに行ってエッチしたみたいやな。」

その後の話です

前書きが男主語だったので、男が手紙をやろうとした

（おそらく女に…かな？）

〇〇がない、〇〇がないので

下線部(ア)

過ぐし→過ごし(?)

①、⑤は???

④楽しくない??→エッチしたやん

③過ごし、がない→×

②→手紙が渡せなくてヤキモキやな(笑)

何の手紙なんやろう？

あ、デート楽しかったよ

とか

また会いたいね

あたりの手紙なんやろーな

まあ、予想だけして次の問題解くために

読むところを考えて次にいくぞ！！

パラグラフはひとつの場面なので、話のまとまりは終わってませんよ！

途中なんか面倒なので、とりあえず飛ばして、

渡せなかった

さっきの手紙を結びつけて

置いた

女が開けてみると

歌(手紙)があった

(Aは男の歌)

それが傍線部(イ)

名残

とあるので

離れるのが名残惜しいのかな？

A→あひみて→会い見て？のあと

このあたりを考慮して

とりあえず選択肢へ！

①つらさ→×

②悲しみ→×

③見飽きることのない…うーん、

④満ち足りないままに別れた→これだ！

⑤開き飽きる??→×

見飽きるって勝手に見ることに焦点をあてているけど、

女の顔とかにひかれているわけでもないしなあ…

→言い過ぎ!!!

よって、④を正解とする

問5もついでにチェック

Aについては①②③で言及している

①会う前より??→会った後の歌よね？

→×

②まあ、いいんと違うかな？

③一向に進展しない二人の仲??→エッチしましたけど??→×

①③が×と分かりました！

ラッキー!!!

次は傍線部(ウ)を解くために

最小限読むぞ！！

とりあえず傍線部付近を見てみる

扇の絵を「傍線部(ウ)」と言って

誰かが見た場面

扇の絵が気になるので

確認するために少し前に戻ってみると

この絵はおもしろし

とあるので、+評価！！

いったん選択肢を見て必要な読み取り要素を確認してみる

いみじ→程度が激しい

そのニュアンスは②③④

+は③のみ

得意げ→マイナスやわ

あまり深く考えず③を正解とする！！

美しい絵を書いたんですね

誰が??→おそらく男やで！！

男は肉食系やからなあ

積極的なアプローチみたいやね

Bの歌は、問5から女の歌みたいですね

問5個で内容を聞いていたので

読んでみると、

かなしさも、忍ばんも

思っていない

別れたままの心、まどっている

って感じみたいです

問5の選択肢を再びチェック

①③は×でしたね

②から見てみると・・・

まあ、いい感じみたい

正解の候補ですね！！

④は

入り乱れた・・・×→そんなの書いてない

⑤は全部書いてないやん・・・×

ということで

Cを確認するまでもなく

正解は②と分かりました！！

傍線部(X)を解くために

情報を最小限にとらえてみよう！

問3

誰が、どのようなことを思った

→主語をチェックやね！

傍線部(X)の上を見ると

母君、とあるので

選択肢チェック

③④⑤がOKですね！！

ごちゃごちゃ中身が書いてあるので

最後に着目してみると・・・

③二人の仲がバレるとヤバイ

④女がやばくて、大変

⑤喜ばしい

母君の様子を本文でパラパラ見てみると・・・

殿(男)によくしつらいなさい、行く末、頼もしい

とあるので

+評価

よって正解は⑤と分かりますね！！

⑤の選択肢を読んで、それまでのあらすじとしてとらえること！

お母さんは

仲が密かに進行していることに安心！！

って流れみたいですね！！

話のあらすじが見えてきたので

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

問6もチラッと覗いてみますね！

①東国のひなびた・・・東国のこと書いてないやん！それに、ひなびた、ってさびれてる系？→バカにしすぎやろ！！

心ひかれるいきさつ??

エッチから始まりました(笑)

→×

②身分違いの恋には試練??

→そんなトーンないし、エッチしました(笑)

③周囲の人に認めてもらうことを恋の成就の重要な条件

→密かにラブラブしていました(笑)

→×

④少しずつ心を通わせていく

→最初にエッチしました(笑)

ということは、

正解は⑤ですね!!!

→こんなの確認不要、時間の無駄遣い！

→こういう選択肢って確認しづらいしね

あとは問4のみですね！

傍線部(Y)右近(女君の侍女)のどんな気持ち？

傍線部の近くに書いてあることを予測して、傍線部も一応検討する。

隅々まで、掃除していて(掃除するんですから、たぶん侍女が)

女が

「露を分ける人もない・・・」と言って

傍線部(Y)

侍女が

「・・・、胸の露は晴れる」

みたいなことを言って笑うと女が恥ずかしい

という場面ですね。

①訪ねてくるかわからない人・・・×

②人は??→×

センター国語解法虎の巻（古文・漢文編）

③なぜ、が気になります→×っぽい

安心させる→×

④まあええんとちゃうかな

⑤すねる・・・×→書いてないやろ！

反発→×

あなたの心の内、分かっていますよ

という右近の気持ちだったのです。

（11）古文（2014年本試験）

前書きを2度読みして状況を完全に覚える

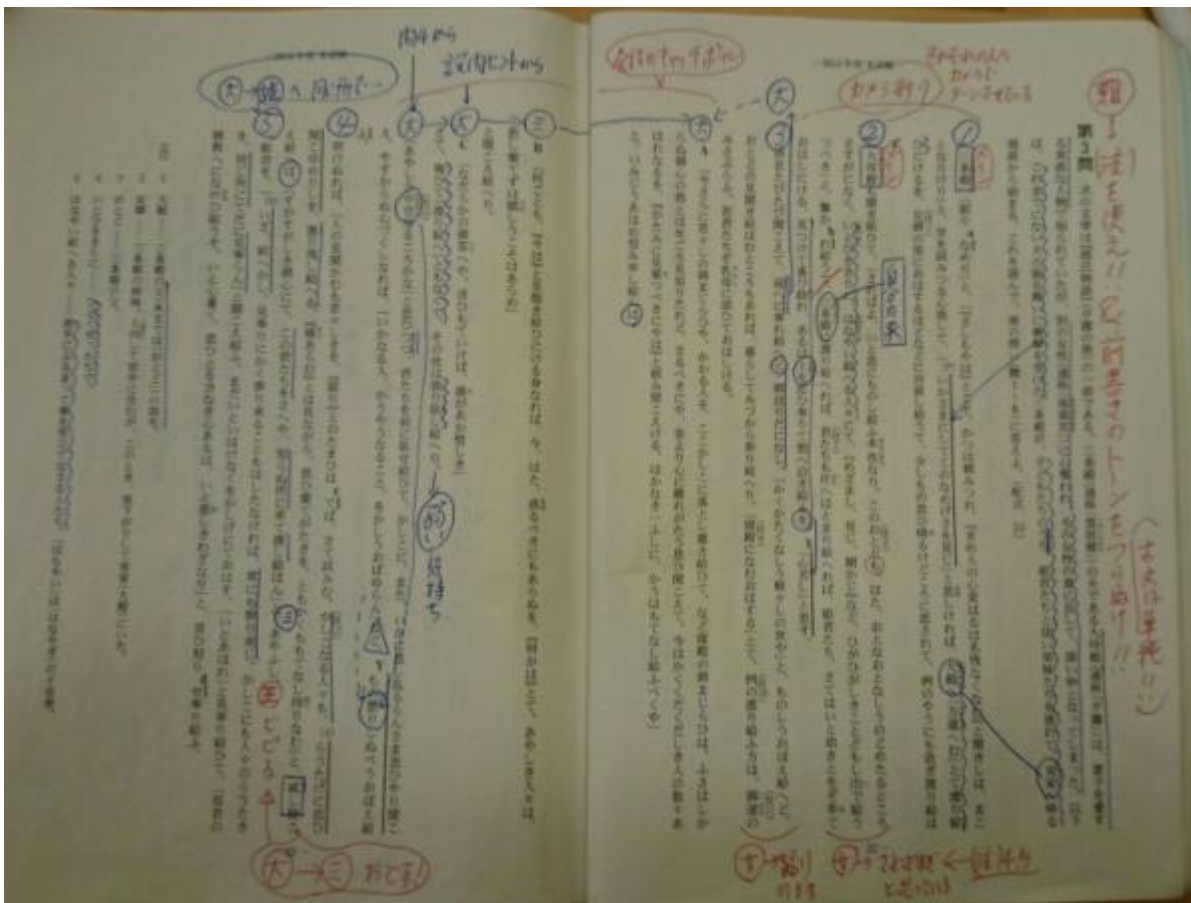
↓

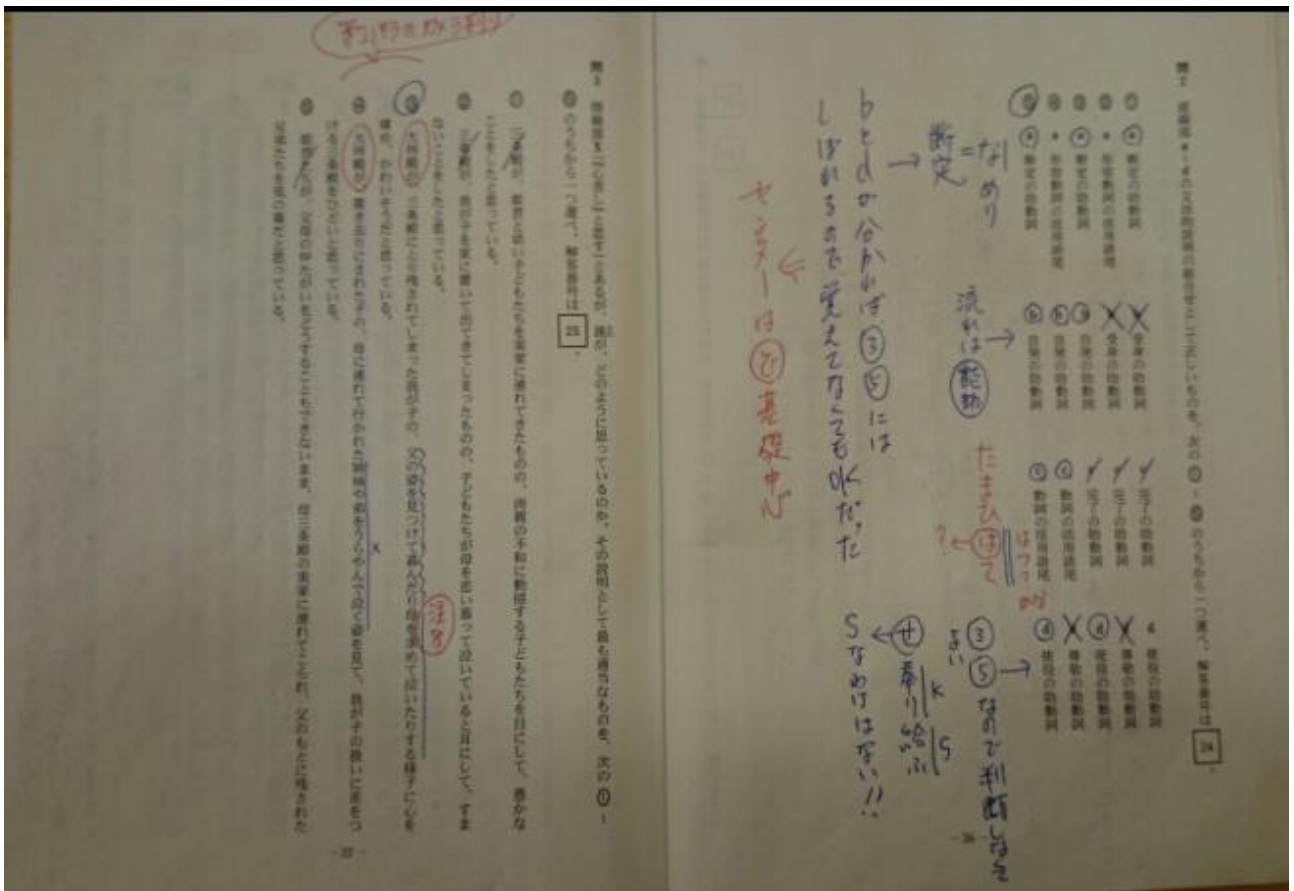
問3、問4、問5を使って主語や構成の確認

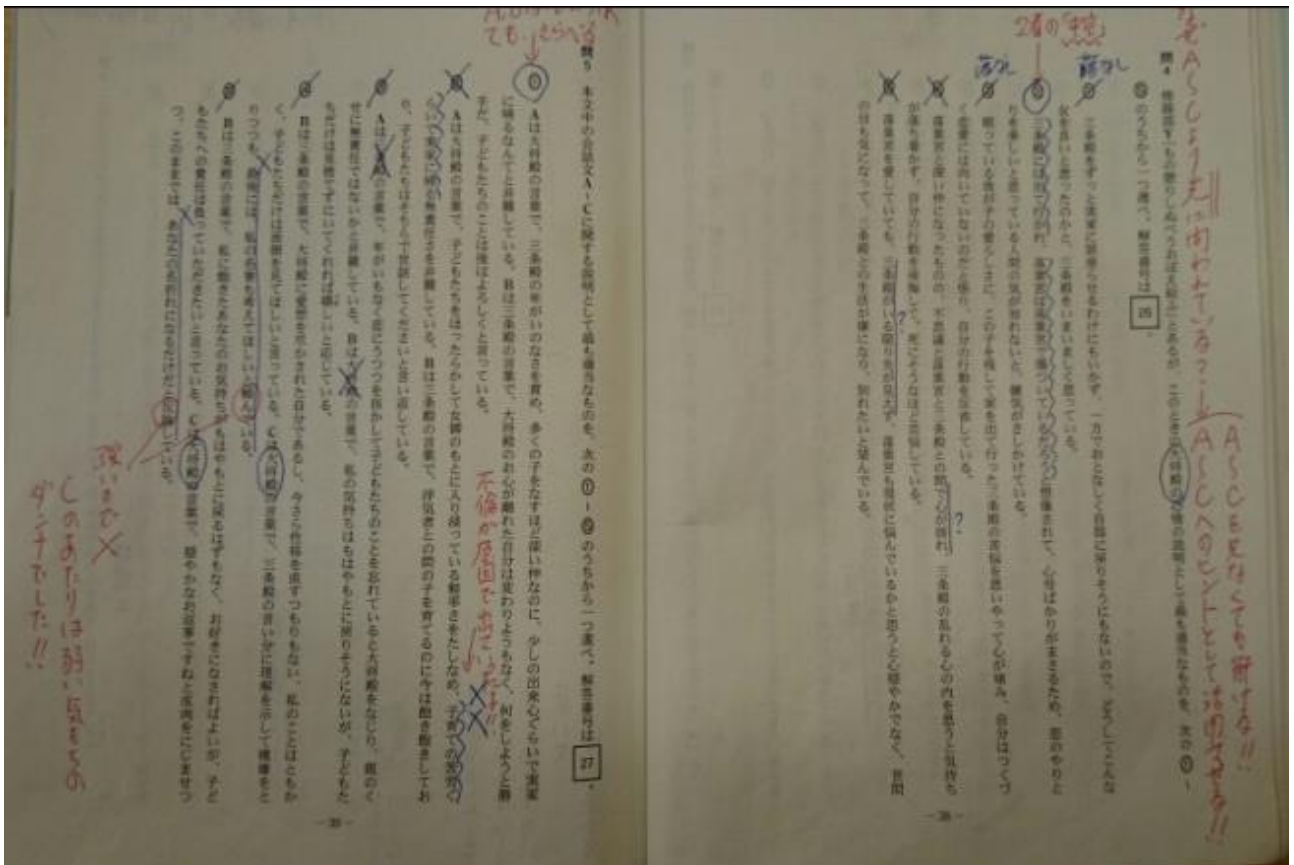
↓

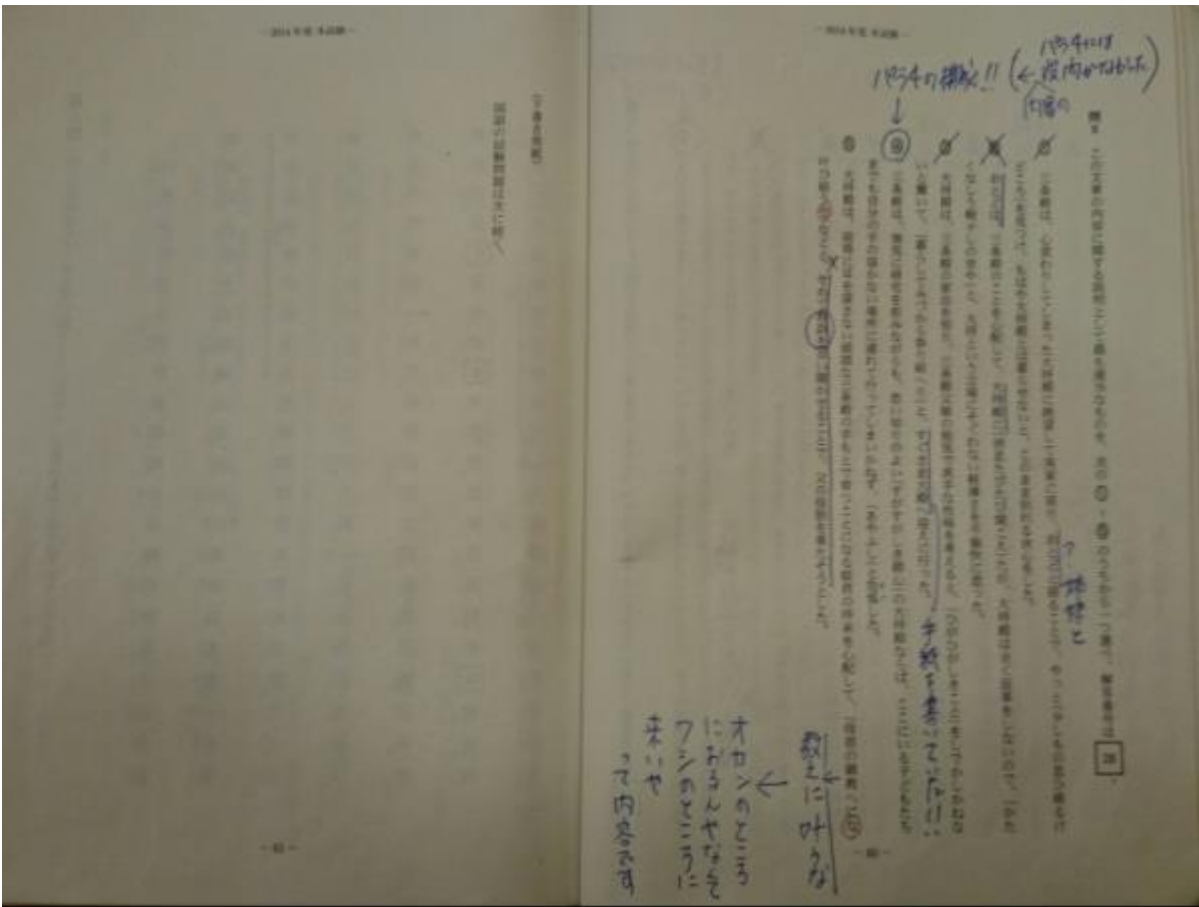
本文を読みながら、パラグラフごとに問題チェック

(注)に答えのヒントが満載でしたね。









（12）漢文（熟語対策）

センター漢文の間1で、漢字（熟語）の意味が問われますね。

これが結構、**面倒**なのですよ、実は……

たとえば、

「豈＝あに＝どうして～か、いや～ない」のような、

どの参考書にも載っているような語句が聞かれれば楽勝です。

ただ、実際に出題されるのはこんなもんじゃないです！

大抵、**見慣れない・聞きなれない語句**の意味が問われます！！

こうした語句の意味は本文に即して考えるのではなく、

漢字そのものをしっかり理解した上で答えます！！

ということは、漢字の知識が乏しいとかなり不利です。

他の設問で得点できても、ここで落とす受験生は多いはずですよ。

漢字とどれだけ真剣に向き合ってきたか

が試されているといっても過言ではないでしょう！

ただ、だからといって、

初めから勘に頼ってマークするのはモッタイナイ！

実は、ある程度、解き方のコツみたいなものがあるのです。

それは、次の3つです。

1. 同じ読みの漢字を考える。

2. 熟語を考える。

3. 部首を変えてみる。

1は、たとえば「**遽**」という漢字。

見たことね～・・・

と焦らずじっくり本文を見ると、

「にはかに」とルビが振ってあるじゃないですか！！

ということは、「**遽＝俄かに＝急に**」ですね！

この「同じ読み～」は

問1対策というよりもそれ以降の設問で生きてきますね。

2は、2009年度センター試験本試験を例に考えましょう。

この年、問1では「**寧歳**」の意味が問われました。

こんな熟語、普通の受験生は知らんでしょ???

じゃあ、どうやって考えるか？

同じような意味の漢字を重ねた熟語

を知識の中から探します。

例えば、「愉悦」「享受」みたいな熟語の「寧」バージョンを記憶の奥底からほじくり返します！！

そうすると、「**安寧**」という熟語が思い浮かぶと思います。

「安寧」の意味は、

「社会の秩序が保たれ、平和なこと」

という意味です。

仮に正確な意味が分からなくたって、

「寧＝安＝やすらか」と分かりますよね？

これより、選択肢の中から

「平和で戦争のない期間」

を選べるわけです！！

熟語を知っていれば簡単ですね～

3は、「坐→座」「游→遊」みたいに

部首を変えてみると難解な語も簡単になるってお話。

2007年センター試験本試験を例にとってみます。

この年は、問1に「疾」の言い換えが問われました。

同試者疾其每試居首、…

という部分の「疾」です。

これだけじゃ分かりにくいのでもう少し注を加えると、

- ・同試者＝同じ試験を受ける者
- ・其＝主人公
- ・居首＝試験で上位にいる

つまり、

「同じ試験を受ける者は、

主人公が毎回の試験で上位にいることに『疾』して、…」

という訳になります。

文脈からもある程度「疾」の意味を推測できますが、

漢字そのものに部首を加えて

「嫉」という漢字を思い出してほしいですね。

つまり、「疾＝嫉妬」と考えればいいわけです。

ということで、選択肢中の**「憎悪」**がもっとも近い意味だと分かります。

以上の3つの方法で考えると、比較的漢文にも取り組みやすくなります！